

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成29年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成29年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 29 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名 取 市商工会、みやぎ仙台商工会、大河原町商工会、
くろかわ商工会、加 美商工会、遠 田商工会、
若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、
本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 5 企業

2. 調査対象期間

平成 29 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 29 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 4
小 売 業	4 4
サービス業	4 5
合 計	1 4 5

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 29 年 1 月～3 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 2.3 ポイントの改善で△35.7 (前期△38.0) となった。産業別にみると、製造業は△28.1 (前期△46.9) と 18.8 ポイント改善、建設業が△20.8 (前期△20.8) と横ばい、小売業では △53.5 (前期△48.8) と△4.7 ポイント悪化、サービス業では△31.9 (前期△31.2) と△0.7 ポイントの若干の悪化であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体として今期は前期(H28 年 10 月～12 月期)に比べて若干悪化した。産業別にみると、製造業は△34.4 (前期△46.8) で 12.4 ポイントの改善、建設業は△37.5 (前期△24.0) で△13.5 ポイント悪化、小売業で△53.4 (前期△48.8) と△4.6 ポイント悪化、サービス業で△34.0 (前期△34.9) と 0.9 ポイントの若干の改善であった。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて若干悪化した。産業別にみると製造業で△29.0 (前期△35.4) と 6.4 ポイント改善、建設業で△20.8 (前期△24.0) で 3.2 ポイント改善、小売業では△52.2 (前期△42.9) で△9.3 ポイント悪化、サービス業では△31.9 (前期△34.1) と 2.2 ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では 15.6%で前期比 3.1 ポイント増加、建設業では 25.0%で前期比 9.0 ポイント増加、小売業では 4.5%と前期比△4.8 ポイント減少、サービス業では 8.9%で前期比△6.7 ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H29年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（H28年12月調査）と比較して製造業が4ポイント改善のプラス5、非製造業は2ポイント改善のプラス4だった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業で改善、建設業・小売業で悪化、建設業、サービス業で若干の改善となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業で全国・東北以下、建設業で全国・東北以下、小売業でも全国・東北以下、サービス業では全国以下、東北以上であった。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.2	△ 19.3	△ 25.0	△ 23.0	△ 46.8	△ 34.4
建 設 業	△ 19.1	△ 17.8	△ 20.7	△ 22.1	△ 24.0	△ 37.5
小 売 業	△ 40.1	△ 38.9	△ 53.2	△ 49.3	△ 48.8	△ 53.4
サービス業	△ 26.5	△ 27.5	△ 27.6	△ 37.4	△ 34.9	△ 34.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業、建設業、サービス業で改善したが、小売業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、製造業・小売業で全国・東北以下、建設業・サービス業で全国以下、東北以上であった。

表二 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.0	△ 21.8	△ 22.1	△ 24.1	△ 35.4	△ 29.0
建 設 業	△ 18.0	△ 19.9	△ 18.7	△ 22.6	△ 24.0	△ 20.8
小 売 業	△ 36.2	△ 37.6	△ 41.0	△ 47.7	△ 42.9	△ 52.2
サービス業	△ 29.7	△ 29.0	△ 29.8	△ 36.4	△ 34.1	△ 31.9

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（29年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で24.7ポイント改善、建設業で8.4ポイント改善、小売業で2.3ポイント改善、サービス業で△2.4ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で19.3ポイントの改善、建設業で△8.4ポイントの悪化、小売業で1.0ポイントの改善、サービス業で2.4ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上・採算共に全国及び宮城で改善の見通しとなった。建設業では、売上は全国で悪化、宮城で改善の見通し、採算では全国で若干の悪化、宮城で悪化の見通しとなった。小売業では、売上は全国・宮城で改善、採算でも共に改善見通しとなった。サービス業では、売上では全国で改善、宮城で悪化の見通し、採算では全国・宮城共に改善の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 19.3	△ 12.5	△ 34.4	△ 9.7
建 設 業	△ 17.8	△ 21.0	△ 37.5	△ 29.1
小 売 業	△ 38.9	△ 34.5	△ 53.4	△ 51.1
サービス業	△ 27.5	△ 23.1	△ 34.0	△ 36.4

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 21.8	△ 17.0	△ 29.0	△ 9.7
建 設 業	△ 19.9	△ 20.4	△ 20.8	△ 29.2
小 売 業	△ 37.6	△ 32.6	△ 52.2	△ 51.2
サービス業	△ 29.0	△ 24.1	△ 31.9	△ 29.5

2. 県下産業別の景況

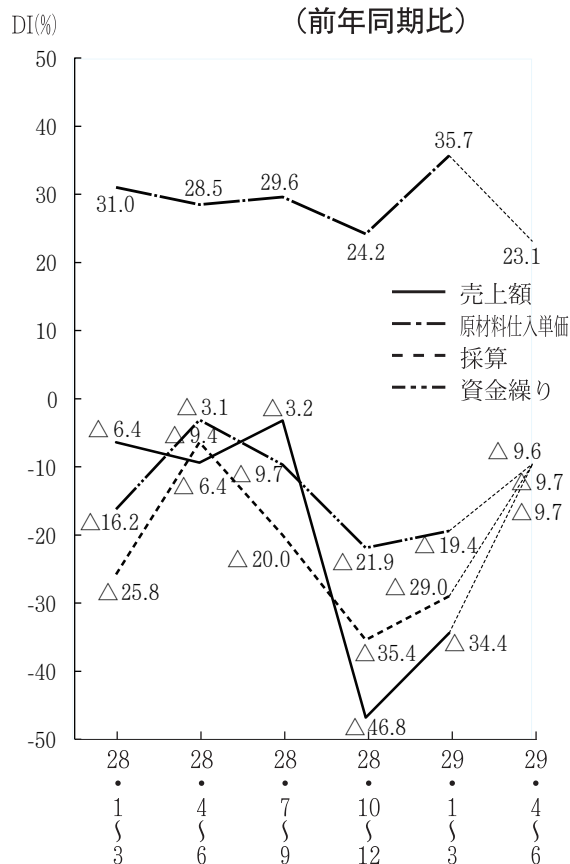
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△34.4（前期△46.8）となり12.4ポイント前期より改善、採算D Iは今期△29.0（前期△35.4）で6.4ポイントの改善、資金繰りD Iも今期△19.4（前期△21.9）で2.5ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期35.7（前期24.2）と11.5ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



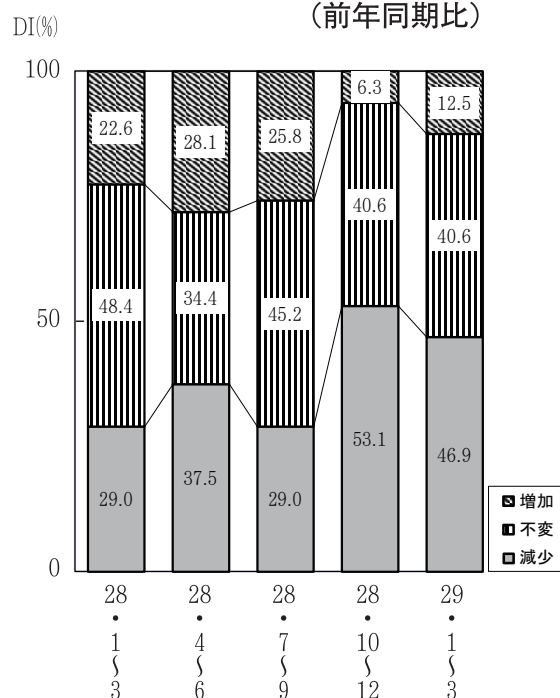
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の12.5%（前期6.3%）と6.2ポイント増加し、「減少」と回答した企業は46.9%（前期53.1%）と△6.2ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△34.4（前期△46.8）となり前期比12.4ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

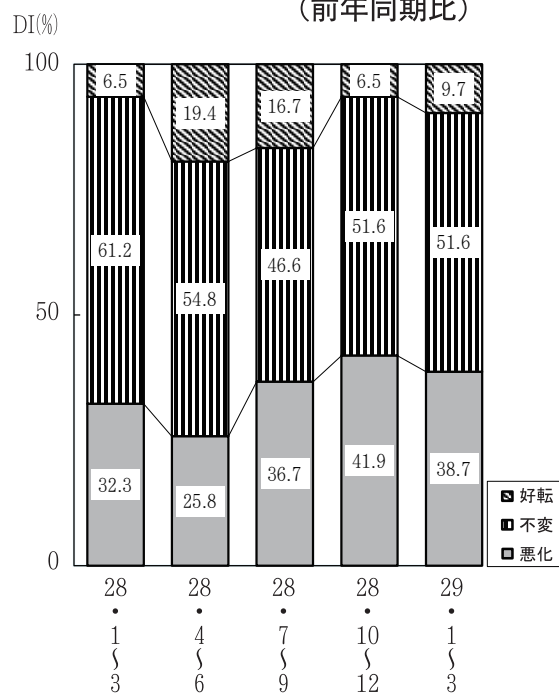


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の9.7% (前期6.5%)で3.2ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は38.7%(前期41.9%)で△3.2ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△29.0 (前期△35.4) で前期比6.4ポイント改善した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



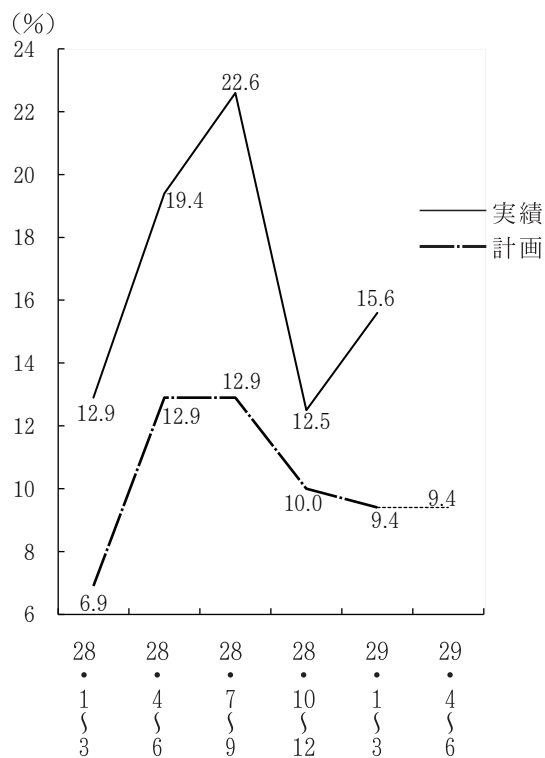
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の15.6%(前期12.5%)で前期と比べ3.1ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.4%で、その設備内容は生産設備、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

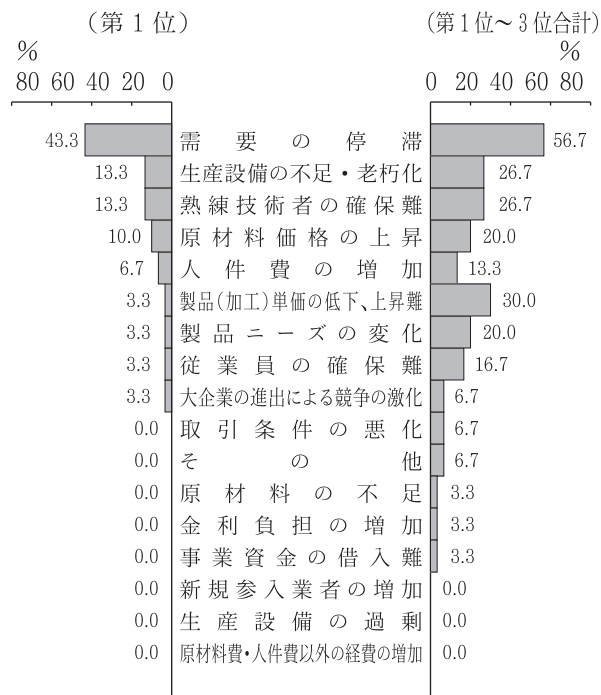


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の43.3%で、次いで「生産設備の不足・老朽化」と「熟練技術者の確保難」が同率13.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が56.7%(複数回答計、以下同じ)で最上位、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が30.0%、「生産設備の不足・老朽化」と「熟練技術者の確保難」が同率26.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



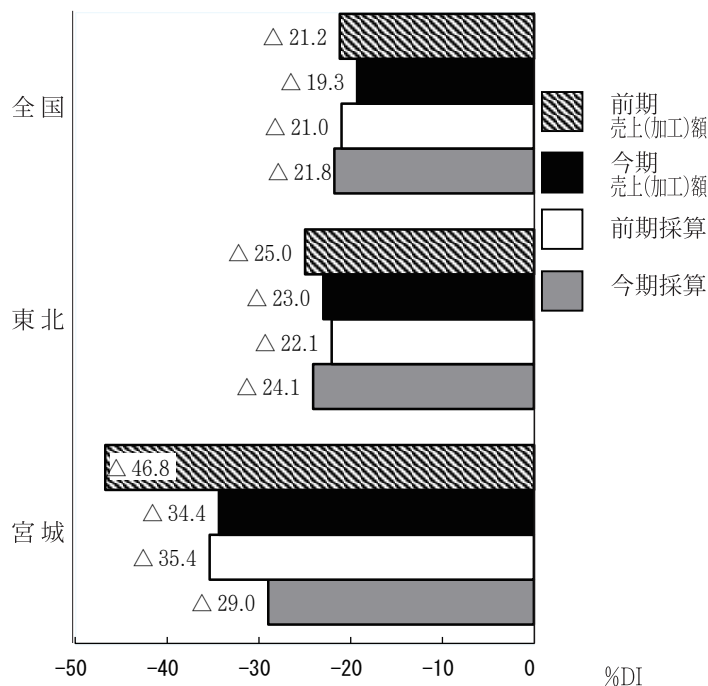
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全区分で改善した。その改善度は、宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較では、全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で改善となった。

本県回答事業者からは「新入社員が集まらず社員の確保が難しい状況」(自動車部品製造業)や、「新規の引き合いが増加しているのでこれに期待」(金属加工業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



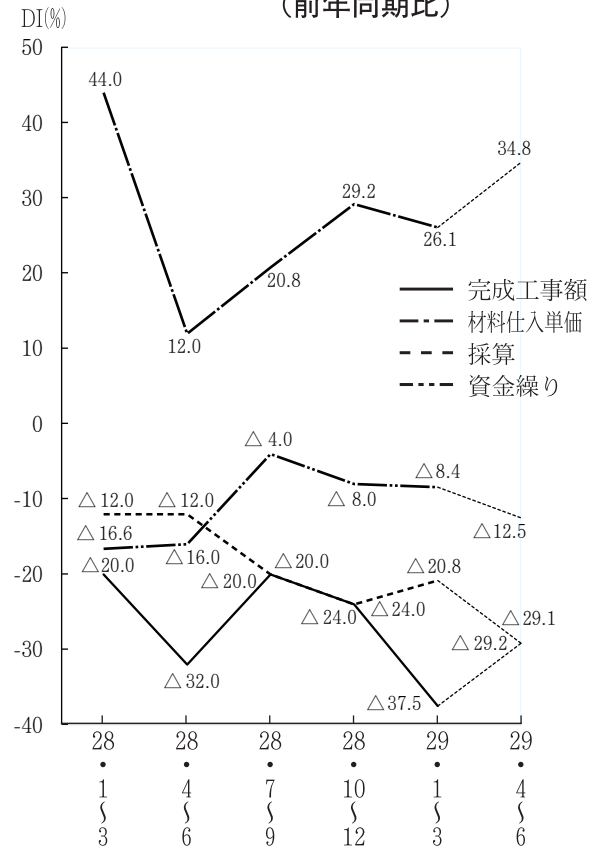
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△37.5（前期△24.0）と前期より△ 13.5ポイント悪化、採算D Iは今期△20.8（前期△24.0）で3.2ポイント改善、資金繰りD Iは今期△8.4（前期△29.2）と△0.4ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 26.1（前期 29.2）と前期より△ 3.1ポイント改善した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



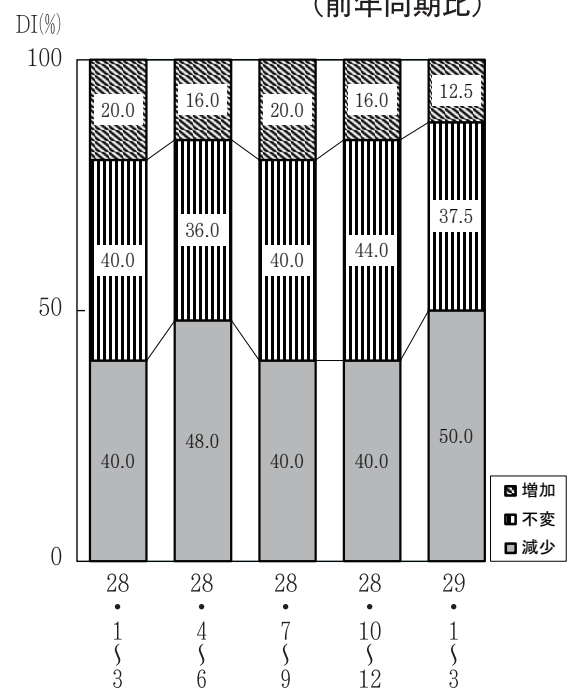
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 12.5%（前期 16.0%）で△3.5ポイント減少、「減少」と回答した企業は 50.0%（前期 40.0%）と 10.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△37.5（前期△24.0）と△13.5ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

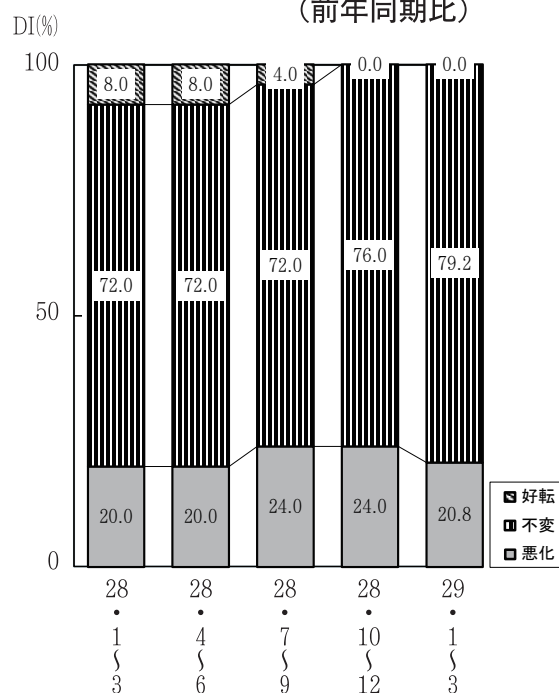


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 0.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の 20.8% (前期 24.0%) で△3.2 ポイント減少した。

その結果、採算DIは 20.8 (前期△24.0) と 3.2 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



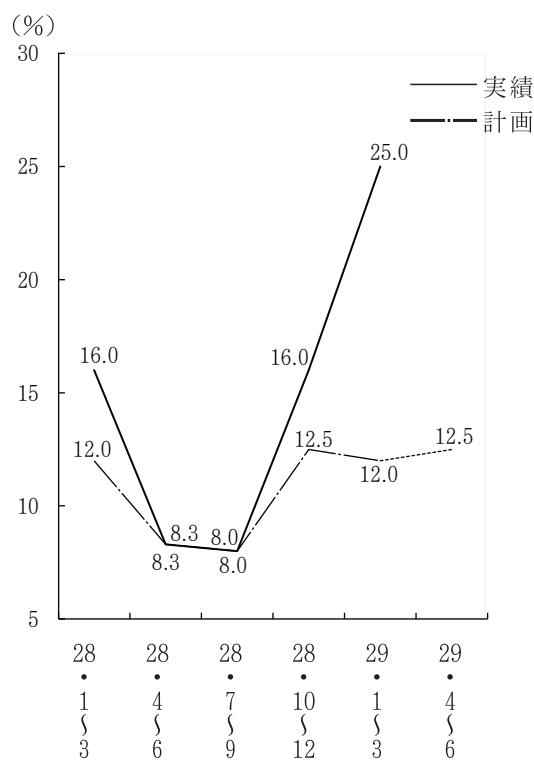
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 25.0% (前期 16.0%) で前期より 9.0 ポイント増加した。

その設備内容は工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 12.5% で、その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

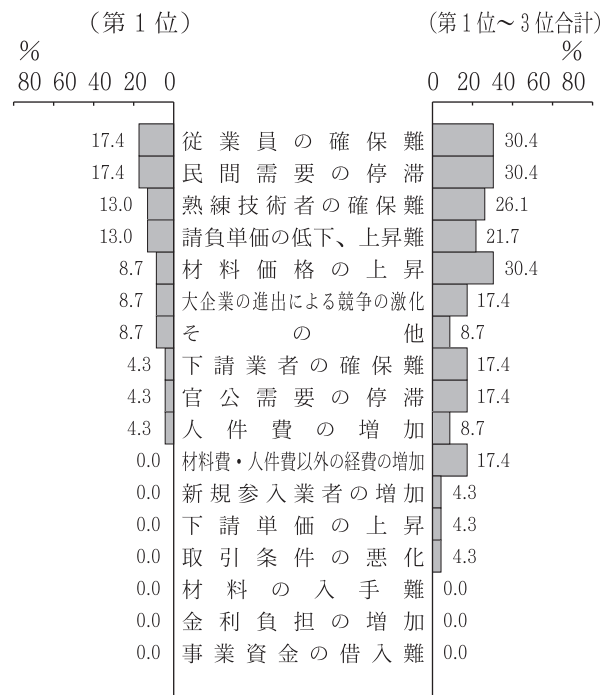


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「従業員の確保難」と「民間需要の停滞」が同率17.4%で、次いで「熟練技術者の確保難」と「請負単価の低下、上昇難」が同率13.0%であった。

重要度第1位から第3位合計では、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」、「材料価格の上昇」が同率30.4%（複数回答計）で最上位であった。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上額DIは全国で改善、東北・宮城で悪化した。

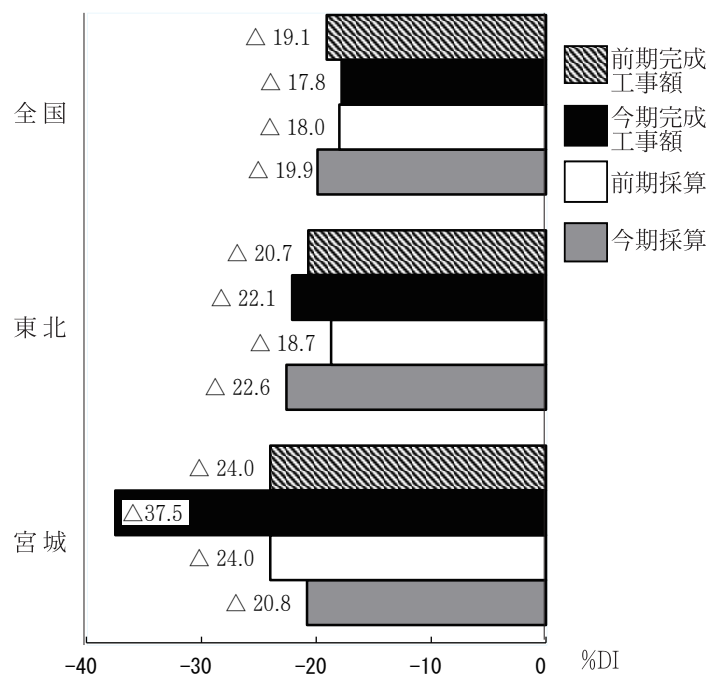
その悪化度は宮城、東北の順であった。

採算DIの比較では、全国・東北で悪化、宮城で改善した。

悪化度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「新築住宅の顧客の多くがハウスメーカーに流れていること、商店街が活性化しないことで受注減」や、「冬の需要が少なくなり、業者間の競争も激しく請負数も減少」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



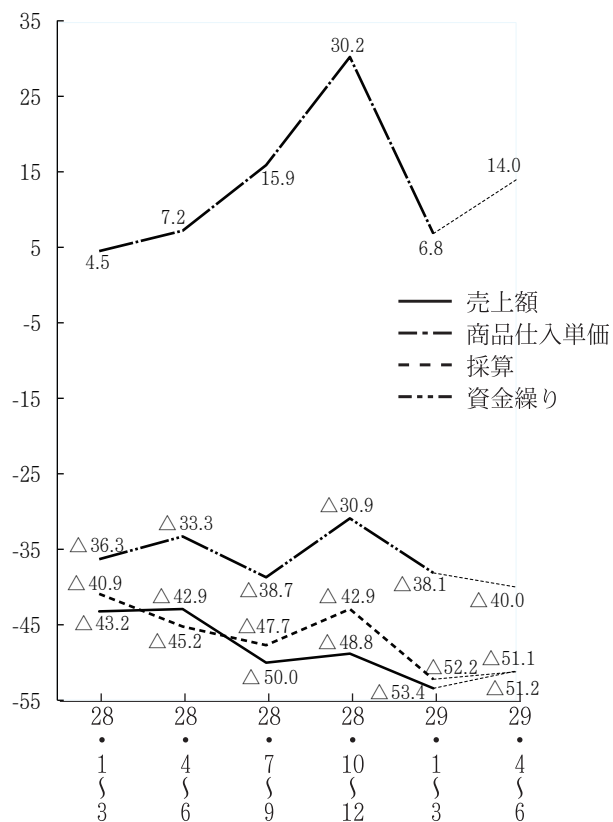
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは△53.4 今期（前期△48.8）と前期に比べ△4.6ポイントの悪化、採算DIも今期△52.2（前期△42.9）で△9.3ポイント悪化、資金繰りDIでも今期△38.1（前期△30.9）で△7.2ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期6.8（前期30.2）となり△23.4ポイント改善した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



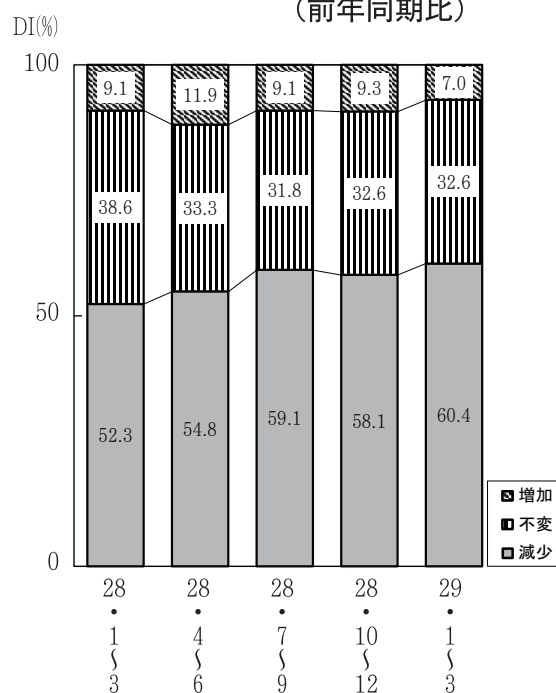
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の7.0%（前期9.3%）と△2.3ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の60.4%（前期58.1%）で2.3ポイント増加した。

その結果、売上額DIは今期△53.4（前期△48.8）と△4.6ポイント前期より悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

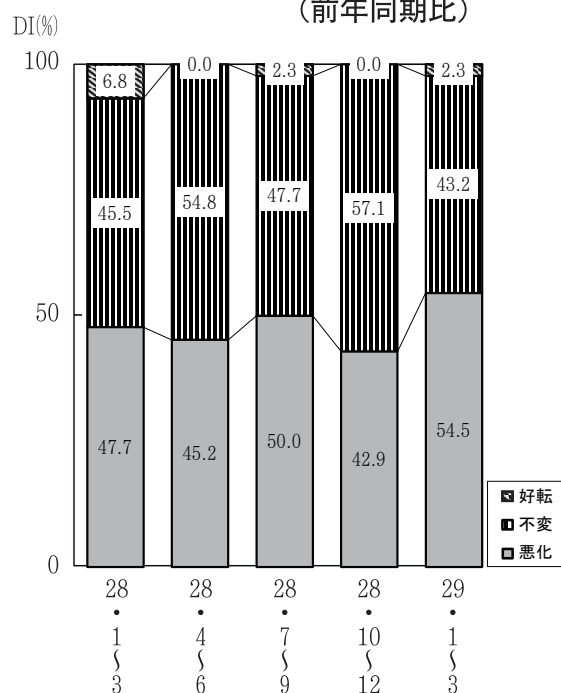


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期0.0%）と2.3ポイント増加、「悪化」の回答も、今期は全体の54.5%（前期42.9%）で11.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは、今期△52.2（前期△42.9）で前期より△9.3ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



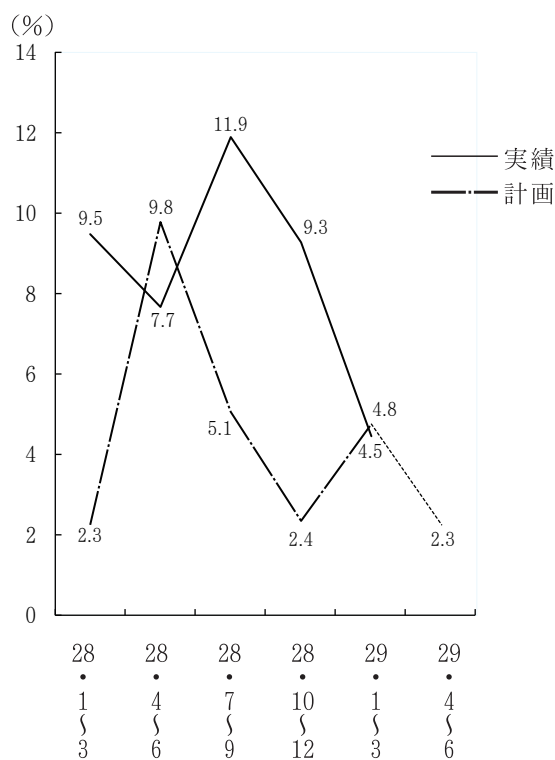
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の4.5%（前期9.3%）で、前期より△4.8ポイント減少した。

その設備内容はOA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は全体の2.3%で、その設備内容は付帯施設となっている。

図3-4 設備投資の状況

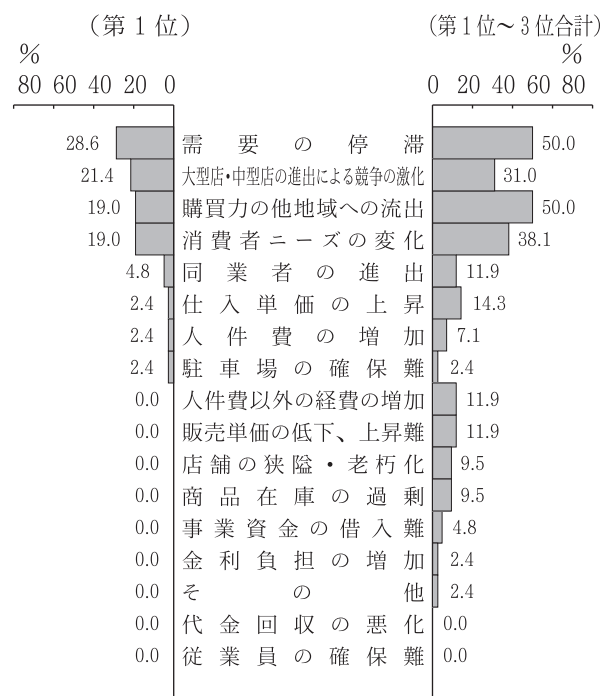


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が28.6%で、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が21.4%、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」が同率19.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」と「購買力の他地域への流出」(50.0%(複数回答合計、以下同じ))が同率最上位で、「消費者ニーズの変化」が38.1%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



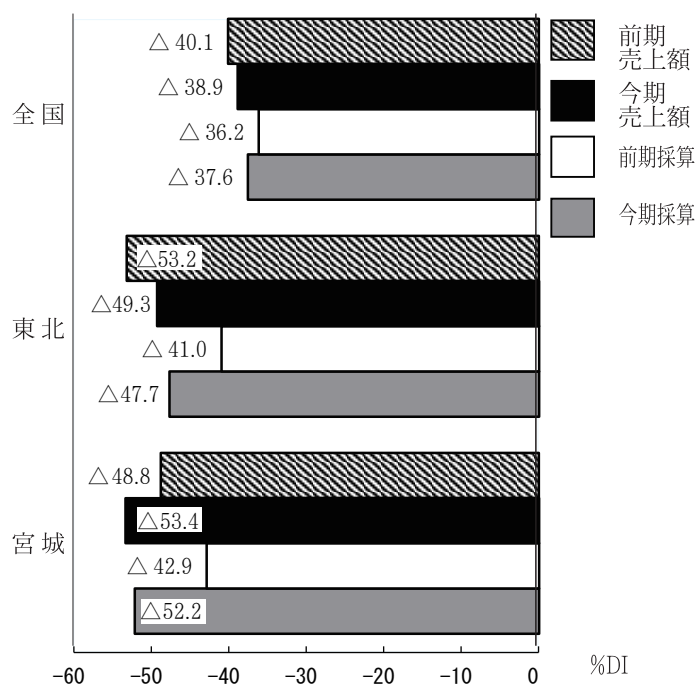
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国・東北で改善、宮城で悪化となった。改善度は東北、全国の順であった。

採算DIでは、全区分で悪化した。悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所から「需要が停滞し、また借入支払等の人件費以外の経費も増加」(酒・食料品販売)、「忙しい時に従業員を確保でき、業況悪化を防止」(花・植木販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



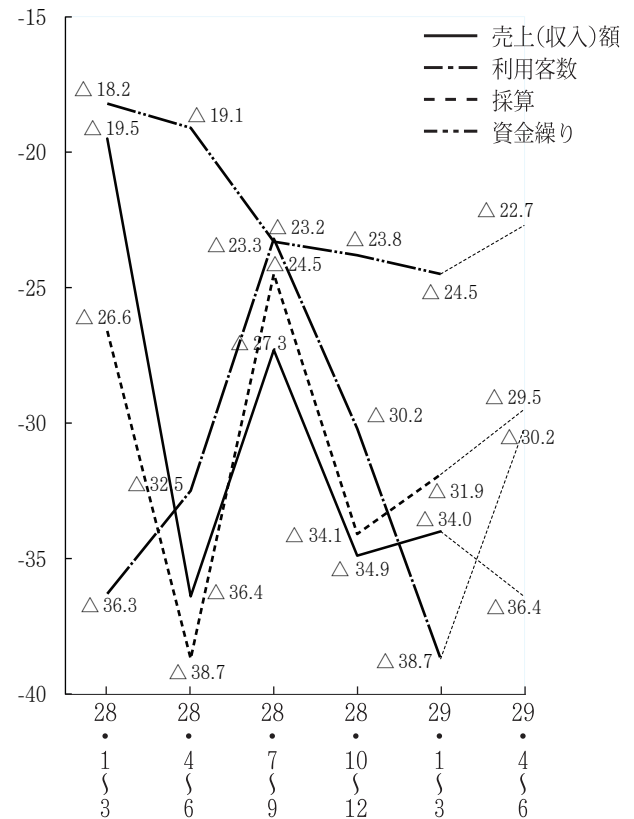
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△34.0（前期△34.9）で0.9ポイント改善、採算D Iも今期△31.9（前期△34.1）で2.2ポイント改善、資金繰りD Iは今期△24.5（前期△23.8）と△0.7ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△38.7（前期△30.2）で△8.5ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



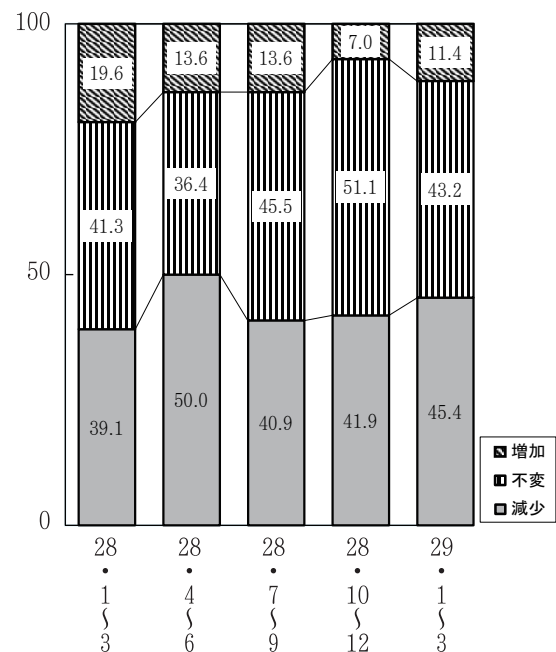
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の11.4%（前期7.0%）で4.4ポイント増加、「減少」の回答も今期45.4%（前期41.9%）で3.5ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△34.0（前期△34.9）で前期より0.9ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

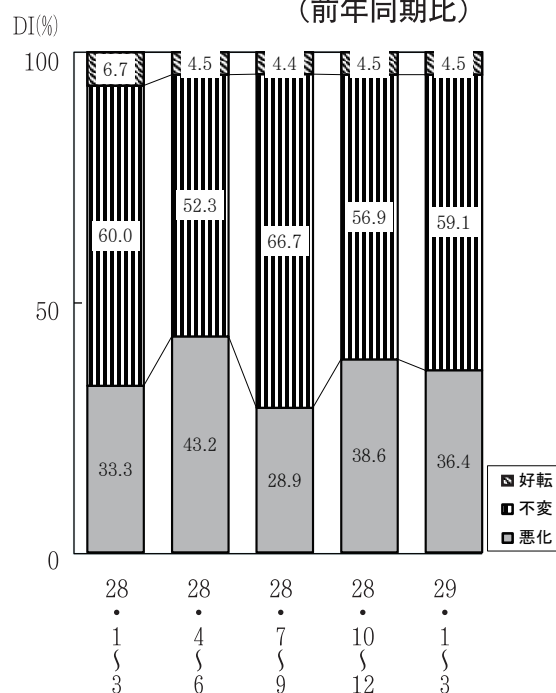


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.5%（前期4.5%）で前期比横ばい、「悪化」と回答した企業は今期36.4%（前期38.6%）と△2.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△31.9（前期△34.1）で前期より2.2ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



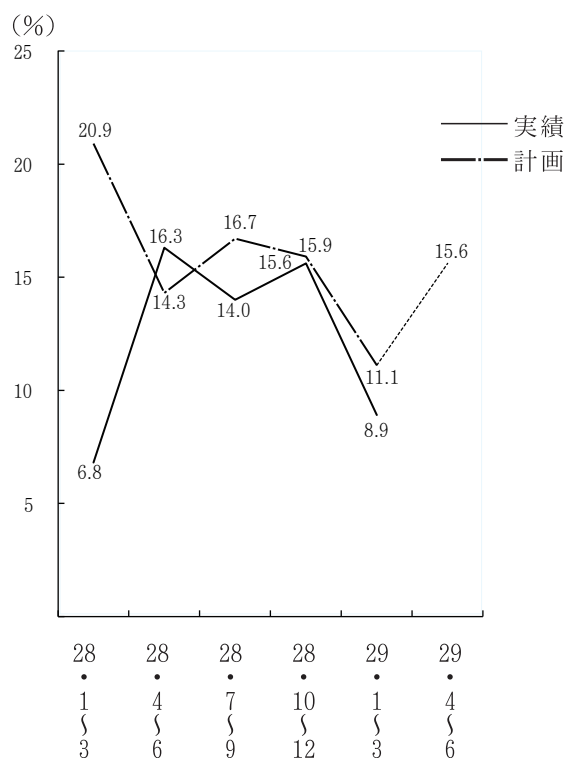
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、全体の8.9%（前期15.6%）で前期より△6.7ポイント減少した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の15.6%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

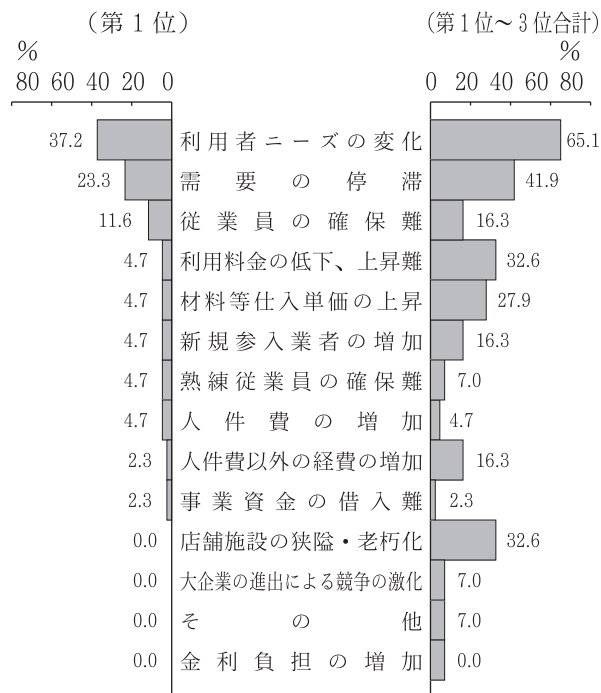


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「利用者ニーズの変化」(37.2%)で、次いで「需要の停滞」が23.3%、「従業員の確保難」が11.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「利用者ニーズの変化」(65.1%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「需要の停滞」が41.9%、「利用料金の低下、上昇難」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率32.6%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全国・東北で悪化、宮城で改善となった。

悪化度は東北、全国の順であった。

採算DIでは全国で若干の改善、東北で悪化、宮城で改善した。

本県回答事業所からは「震災復興需要の反動と従業員の確保難に対処するため、今後の事業やビジネスモデルの見直しが急務」(旅館業)とのコメントや、「店内改修により、今まで以上にお客様が利用しやすくなり、また今までにないサービスの提供を実現」(喫茶業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

